

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月6日

【評価実施概要】

事業所番号	873100937		
法人名	有限会社 美野里メディカルサービス		
事業所名	グループホームつつじ		
所在地	東茨城郡茨城町上飯沼2-278 (電話) 029-240-7351		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年8月10日	評価確定日	平成20年2月22日

【情報提供票より】(平成19年7月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	16 人	常勤10人, 非常勤6人, 常勤換算4.26	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(7月24日現在)

利用者人数	27名	男性 14名	女性 13名
要介護1	8	要介護2	13
要介護3	4	要介護4	2
要介護5		要支援2	
年齢	平均 81歳	最低 52歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美野里病院 宇野歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに、野菜やしめ縄づくりの指導、将棋・囲碁・俳句・音楽鑑賞を共に興じ、人生の先輩としてアドバイスを受けるなど、支え合う関係を築いている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果とともに、自らの気づきを加えて、利用者の権利・義務の事項を契約書に明示したり、職員の育成を図る仕組みづくり、同業者と交流する機会を設けるなど、課題の改善を行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価や外部評価の結果とともに、自らの気づきを加えて、課題の改善に努めているが、自己評価や外部評価の意義について、職員に周知を図るまでには至っていないので、外部評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価に取り組む体制作りが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を開催していないので、運営推進会議の開催に向け、行政や地域の代表、家族等に働きかけ、委員の選考や会議の開催に取り組むことが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時や電話等で意見や苦情が言えるよう働きかけている。 また、意見等の対応は管理者や職員ですぐに検討し、改善できるよう努めている。 利用者の日頃の様子や事業所の行事を知らせるホーム便りを作成し、家族の状況等に応じて送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小・中学校の体験学習の受け入れ、演奏ボランティアの来所、三世代交流の実施、地域の祭りに参加するなど、積極的に地域の人々と交流している。 また、ホームで行事を行うときは、ポスターを掲示し、周知を図っている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が家族や地域の人々とその人らしく暮らし続けられるよう、「笑顔・健康・助け合い」を事業所の理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有するとともに、日々のサービスにおいて実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小・中学校の体験学習の受け入れ、演奏ボランティアの来所、三世代交流の実施、地域の祭りに参加するなど、積極的に地域の人々と交流している。 また、ホームで行事を行うときは、ポスターを掲示し、周知を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果とともに、自らの気づきを加えて、利用者の権利・義務の事項を契約書に明示したり、職員の育成を図る仕組みづくり、同業者と交流する機会を設けるなど、課題の改善に取り組んでいる。 自己評価や外部評価の意義について、職員に周知を図るまでには至っていない。	○	外部評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価に取り組む体制作りが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催していない。	○	運営推進会議の開催に向け、行政や地域の代表、家族等に働きかけ、委員の選考や会議の開催に取り組むことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者等と連携するまでには至っていない。	○	ホームの実情や課題などについて、町の担当課と話す機会を設けるなど、課題解決等に向けて連携を図ることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日頃の様子や事業所の行事を知らせるホーム便りを作成し、家族の状況等に応じて送付している。 また、金銭に関する管理状況の報告を行っているが、定期的に報告するには至っていない。	○	金銭に関する管理状況を定期的に家族に送付、報告することを提案する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話等で意見や苦情が言えるよう働きかけている。 また、意見等の対応は管理者や職員ですぐに検討し、改善できるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が利用者一人ひとりと馴染みの関係となるよう、また、関わりを持てるよう配慮している。 職員のユニット間の異動を定期的実施している。	○	職員のユニット間異動を定期的実施しているため、利用者が顔馴染みの職員に支援を受けられるよう職員をある程度固定化する取組みを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を随時掲示し、研修参加を呼びかけている。 受講者は研修内容をミーティング等で報告し、情報を共有している。	○	研修参加は職員の休日に配慮するなど、受講しやすい環境づくりを期待する。 研修報告書などの回覧書類を閲覧した職員が確認できるよう、欄を設けるなどの取組を提案する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	近隣の事業所が行う研修やイベントなどに参加するなど、同業者と交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者がホームの雰囲気に馴染めるよう、見学の際に利用者との交流する機会を設け、本人が納得したうえで利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに、野菜やしめ縄づくりの指導、将棋・囲碁・俳句・音楽鑑賞を共に興じ、人生の先輩としてアドバイスを受けるなど、支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で利用者の思いや意向を把握するため、声かけを行い、利用者が希望する生活が送れるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を第一に考え、関係者と職員間で定期的に話し合い、担当者会議において意見交換するとともに、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険の更新時に介護計画書を見直ししているが、期間や利用者の状態変化に応じた随時の見直しまでには至っていない。	○	介護計画の見直しは、期間に応じて、或いは利用者の状態に応じて見直すことが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて通院の送迎等柔軟な支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医を決めている。 また、設置法人の病院と協力し、定期的な受診と24時間いつでも適切な医療が受けられる体制を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の家族の意向を聞き、かかりつけ医等と話し合い、方針を共有している。 現在までに実例はないが、職員も理解している。	○	今後に備え重度化した場合や終末期の対応マニュアルを作成することを提案する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースで生活が送れるよう希望を聞き、希望に添った支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かしながら、職員と一緒に準備や食事・片づけを行っている。 利用者の好みに応じた献立を作成している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日を設定しているが、利用者の希望に合わせ、ゆったりと入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園での野菜作り・草取り・室内の清掃・洗濯たたみ・食後の片づけ・趣味の将棋・囲碁・俳句・音楽鑑賞等、楽しみや役割を持って過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気温に注意しながら、本人の希望に応じて、散歩、日光浴等を実施している。	○	外出支援において、近所の散歩ばかりでなく、交通手段を確保するなどにより、文化施設、商店等へ外出できるよう検討することを提案する。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が一人で外出した際の事故防止のため、玄関は鍵をかけている。 玄関以外の鍵はかけておらず、事業所内や庭など自由に出入りしている。	○	玄関に人の出入りがわかるような工夫や検討を期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時の対応マニュアルを作成するとともに、定期的に消防署の指導による防災訓練を行っている。	○	災害時の避難にあたり、地域の人々の協力と、避難経路、場所を確認しておくことを提案する。 防災用品は飲料水だけでなく、必要品を備蓄しておくことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分の摂取量をチェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから庭の花壇や菜園、外の景色を眺め季節を感じることができる。 室内にも観葉植物・活け花・季節感のある造形品を置いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が着ていた服、これまで使っていた物、思い出の品（服飾品・書籍・ラジカセ等）が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう、配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。